

## II 質問紙調査結果の概要

ここでは、各学校における生徒の主体的な学びの推進に向けて、生徒質問紙における生徒の主体的な学びに関連すると考えられる質問項目や、学校質問紙における高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクトに関連すると考えられる質問項目について、調査結果の特徴を整理した。

(生徒質問紙調査)

項目	詳細
生活等に関する調査	①自己実現・自己効力感 ②生活時間 ③読書
学習に関する調査	①授業形態 ②ICT機器を活用した学習
学習に関する質問項目（主体的な学び）と生活等及び学習に関する質問事項との関連	①学習に関する質問項目（主体的な学び）と生活等に関する質問項目 ②質問項目「自分から進んで勉強します。」と学習に関する質問項目

(学校質問紙調査)

項目	関連する研修等
各教科の指導に関する調査	教科リーダー研修
その他の教育活動に関する調査	カリキュラム・マネジメント研修

(学校質問紙調査と生徒質問紙調査)

項目	関連する研修等
活用問題の取組と学習に関する質問項目との関連	教科リーダー研修
ポートフォリオ評価等の取組と学習に関する質問項目との関連	研究開発校（資質・能力の評価）

### 1 生徒質問紙調査

(1) 生活等に関する調査について

①自己実現・自己効力感について

I (8)「努力すれば、将来の夢や目標はかなうと思います。」と、I (10)「将来の夢や目標を持っています。」に対して肯定的回答（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」）をした生徒の割合を、中学校2学年の時から高等学校2学年の時まで整理した。（平成30年度広島県学力調査報告書を参考）

I (8)「努力すれば、将来の夢や目標はかなうと思います。」

	中学校2学年の時	高等学校1学年の時	高等学校2学年の時
平成30年度高等学校1学年	64.8 *	87.2	
平成30年度高等学校2学年	66.1 **	87.2	86.6

I (10)「将来の夢や目標を持っています。」

	中学校2学年の時	高等学校1学年の時	高等学校2学年の時
平成30年度高等学校1学年	75.3 *	73.8	
平成30年度高等学校2学年	76.9 **	73.7	73.4

(注) \* : 集計対象者数は21,442名（平成28年度広島県学力調査報告書より）

\*\* : 集計対象者数は22,191名（平成27年度広島県学力調査報告書より）

②生活時間について

生徒の生活時間について、平日（月曜日～金曜日）において、1日にテレビを見たりゲーム機器を用いて遊んだりする時間、携帯電話等を用いてメールや SNS を利用する時間、勉強する時間について、平成 26 年度から平成 30 年度まで整理した。

(I (17) 「平日（月曜日～金曜日）、1日にどのくらいテレビを見たり、ゲーム機器を用いて遊んだりしますか。」に対する生徒の回答の割合)

学年	年度	していない	1 時間未満	1 時間以上 3 時間未満	3 時間以上
1	H26	5.3	25.1	50.4	19.1
	H27	5.2	24.6	50.0	20.1
	H28	4.6	25.1	50.0	20.4
	H29	4.8	25.8	48.9	20.4
	H30	4.0	22.4	50.3	23.4

学年	年度	していない	1 時間未満	1 時間以上 3 時間未満	3 時間以上
2	H26	5.8	25.7	50.4	18.3
	H27	5.6	26.5	50.2	17.7
	H28	5.2	25.8	49.7	19.3
	H29	6.0	27.4	47.1	19.6
	H30	4.6	24.3	48.9	22.2

(I (18) 「平日（月曜日～金曜日）、1日にどのくらい携帯電話等を用いてメールや SNS を利用しますか。」に対する生徒の回答の割合)

学年	年度	していない	1 時間未満	1 時間以上 3 時間未満	3 時間以上
1	H26	6.9	32.9	40.7	19.5
	H27	6.7	33.6	40.3	19.4
	H28	5.9	35.3	40.3	18.5
	H29	5.4	35.6	40.5	18.5
	H30	6.5	33.2	41.2	19.0

学年	年度	していない	1 時間未満	1 時間以上 3 時間未満	3 時間以上
2	H26	5.6	33.1	41.9	19.5
	H27	5.5	34.9	41.3	18.4
	H28	5.4	34.9	40.7	19.0
	H29	4.8	35.6	40.5	19.2
	H30	5.6	33.0	41.9	19.5

(Ⅱ (52)「平日 (月曜日～金曜日), 家庭では, 1日にどのくらい勉強しますか。」(学習塾や家庭教師との学習はのぞきます。) に対する生徒の回答の割合)

学年	年度	していない	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上
1	H26	17.0	33.2	46.2	3.6
	H27	16.5	33.8	45.6	4.1
	H28	16.0	33.2	46.8	4.1
	H29	15.6	33.3	46.7	4.4
	H30	17.4	34.6	44.4	3.6

学年	年度	していない	1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上
2	H26	23.4	30.3	41.2	5.3
	H27	20.2	29.6	44.7	5.3
	H28	21.7	30.1	43.0	5.1
	H29	20.9	30.2	42.9	6.0
	H30	22.3	30.8	41.8	5.1

③読書について,

I (16)「1か月に何冊くらい本を読みますか。(教科書や問題集, 漫画を除きます)」に対して「読まない」と回答した生徒の割合を, 中学校2学年の時から高等学校2学年の時まで整理した。(平成30年度広島県学力調査報告書を参考)

(1か月に本を読まない生徒の割合)

	中学校2学年の時	高等学校1学年の時	高等学校2学年の時
平成30年度高等学校1学年	17.7 *	44.6	
平成30年度高等学校2学年	16.2 **	43.0	50.1

(注) \* : 集計対象者数は21,442名 (平成28年度広島県学力調査報告書より)

\*\* : 集計対象者数は22,191名 (平成27年度広島県学力調査報告書より)

(2) 学習に関する調査について

①授業形態について

授業形態及び学習方法に関する次の質問項目に対して, 肯定的回答(「よくあてはまる」, 「ややあてはまる」)をした生徒の割合を, 平成28年度から平成30年度まで整理した。

番号	質問項目	学年	H28	H29	H30
Ⅱ (31)	「授業では, 少人数で学習した方がよくわかります。」	1	67.8	66.7	70.4
		2	71.7	71.8	73.7
Ⅱ (32)	「授業では, 自分の学習進度に合わせて教えてもらった方がよくわかります。」	1	84.5	84.8	87.6
		2	86.0	86.2	87.9
Ⅱ (33)	「授業ではペア・グループ等で互いに考えを伝え合いながら学習する方がよくわかります。」	1	66.2	67.5	71.7
		2	59.8	62.7	65.1

Ⅱ (34)	「授業では、作業や体験を通して学習した方がよくわかります。」	1	86.4	85.5	85.2
		2	83.6	84.6	83.2
Ⅱ (35)	「授業では、講義よりも自分で課題を解決していく学習の方がよくわかります。」	1	59.6	61.5	59.3
		2	59.5	60.9	58.5

(分析の概要)

少人数での学習や生徒同士で互いに考えを伝え合う学習の方がよくわかるという生徒の割合が増加している。自分で課題を解決する学習の方がよくわかるという生徒は約6割にとどまっている。

② ICT機器を活用した学習について

ICT機器を活用した学習に関する次の質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」）をした生徒の割合を、平成29年度から平成30年度まで整理した。

番号	質問項目	学年	H29	H30
Ⅱ (54)	「プリントだけを用いた学習よりも、コンピュータなどのICT機器も活用した学習の方が、やる気が高まります。」	1	64.6	66.0
		2	62.6	65.1
Ⅱ (55)	「わからないことや必要な情報を、すぐに知りたいときは、インターネットを活用して調べます。」	1	88.3	87.5
		2	88.3	89.1
Ⅱ (56)	「プリントだけを用いた学習よりも、コンピュータなどのICT機器も活用した学習の方が、よくわかります。」	1	63.8	64.8
		2	62.6	64.7
Ⅱ (57)	「レポートやプレゼンテーションの資料を作成したり、修正したりする際には、コンピュータなどのICT機器を活用します。」	1	44.7	41.2
		2	54.0	50.8
Ⅱ (58)	「グループ学習などで、自分の意見や考えを伝えやすくするために、コンピュータなどのICT機器を活用します。」	1	28.0	26.1
		2	32.7	31.3

(分析の概要)

プリントだけを用いた学習よりも ICT 機器を活用した学習の方がやる気が高まったりよくわかったりするという生徒の割合が増加している。ICT 機器の活用については、1 学年と 2 学年の差が大きい。

(3) 学習に関する質問項目（主体的な学び）と生活等及び学習に関する質問事項との関連

①学習に関する質問項目（主体的な学び）の回答と生活等に関する質問項目の回答との相関

学習に関する質問項目（主体的な学び）の回答と生活等に関する質問項目の回答との相関を見るために、ピアソンの積率相関係数を調べた。

(学習に関する質問項目（主体的な学び）と生活等に関する質問項目)

番号	分類	質問項目
I (6)	生活等に関する質問項目	「自分のよさは、周りの人から認められていると思います。」
I (8)		「努力すれば、将来の夢や目標はかなうと思います。」
I (9)		「将来、留学したい又は海外で働きたいと思います。」
I (10)		「将来の夢や目標を持っています。」
I (11)		「将来、身近な地域に貢献したいと思います。」

II (21)	学習に関する質問項目 (主体的な学び)	「勉強は、私のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」
II (22)		「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」
II (23)		「自分から進んで勉強します。」
II (36)		「物事を筋道立てて考えようとしています。」
II (39)		「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとしています。」
II (41)		「社会や自然などについての事象の関係を考えようとしています。」
II (43)		「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪し判断しようとしています。」
II (48)		「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」

(関連の目安)

相関係数	意味	相関係数	意味
0.8~1.0	強い相関がある	0.5~0.8	かなり相関がある
0.2~0.5	やや相関がある	0.0~0.2	ほとんど相関がない

(学習に関する質問項目(主体的な学び)の回答と生活等に関する質問項目の回答との相関)

番号	学習に関する質問項目(主体的な学び)	相関係数				
		I (6)	I (8)	I (9)	I (10)	I (11)
II (22)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	0.23	0.25	0.24	0.29	0.28
II (23)	「自分から進んで勉強します。」	0.27	0.26	0.22	0.26	0.27
II (21)	「勉強は、私のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」	0.25	0.24	0.19	0.23	0.26
II (36)	「物事を筋道立てて考えようとしています。」	0.25	0.20	0.14	0.19	0.21
II (39)	「複数の情報から必要な情報を選んで使おうとしています。」	0.24	0.23	0.14	0.19	0.23
II (41)	「社会や自然などについての事象の関係を考えようとしています。」	0.20	0.15	0.18	0.17	0.25
II (43)	「議論や証明の仕組みを考えて、その良し悪し判断しようとしています。」	0.20	0.15	0.15	0.16	0.23
II (48)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	0.28	0.24	0.18	0.21	0.29

(分析の概要)

学習に関する質問項目(主体的な学び)の回答と有意な関連があると考えられる質問項目は、I (6)「自分のよさは、周りの人から認められていると思います。」、I (8)「努力すれば、将来の夢や目標はかなうと思います。」、I (11)「将来、身近な地域に貢献したいと思います。」である。

② II (23)「自分から進んで勉強します。」の回答と学習に関する質問項目の回答との相関

II (23)「自分から進んで勉強します。」の回答と学習に関する質問項目の回答との相関を見るために、ピアソンの積率相関係数を調べた。

番号	学習に関する質問項目	相関係数
Ⅱ (19)	「何のために勉強するか、言うことができます。」	0.39
Ⅱ (21)	「勉強は、私のふだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。」	0.39
Ⅱ (22)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	<b>0.46</b>
Ⅱ (25)	「わからない問題でも、あきらめないでやってみます。」	<b>0.49</b>
Ⅱ (26)	「答が間違っていたとき、その理由を確かめます。」	<b>0.44</b>
Ⅱ (33)	「授業ではペア・グループ等で互いに考えを伝え合いながら学習する方がよくわかります。」	0.17
Ⅱ (34)	「授業では、作業や体験を通して学習した方がよくわかります。」	0.17
Ⅱ (35)	「授業では、講義よりも自分で課題を解決していく学習の方がよくわかります。」	0.23
Ⅱ (45)	「問題を解くときは、他にも解き方がないかをよく考えます。」	0.36
Ⅱ (46)	「勉強するときは、今まで習ったことと関連付けて理解しようとしています。」	<b>0.42</b>
Ⅱ (47)	「学んだことを日常生活にどう活用できるかを考えます。」	0.37

(分析の概要)

「自分から進んで勉強します。」の質問項目の回答と有意な関連があると考えられる質問項目は、Ⅱ (25)「わからない問題でも、あきらめないでやってみます。」、Ⅱ (22)「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」、Ⅱ (26)「答が間違っていたとき、その理由を確かめます。」、Ⅱ (46)「勉強するときは、今まで習ったことと関連付けて理解しようとしています。」である。

## 2 学校質問紙調査

### (1) 各教科の指導に関する調査について

#### ①各教科における学習の振り返りと授業改善について

各教科における学習の振り返りと授業改善に関する次の質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」）をした割合を、平成29年度から平成30年度まで整理した。

番号	質問項目	教科	学年	H29	H30
Ⅱ1(8) 2(8) 3(8)	「(国語科・数学科・外国語科)では、思考の過程を整理させるなど、学習したことを振り返らせる指導を取り入れている。」	国語	1		87.7
			2		84.4
		数学	1	78.2	89.3
			2	76.9	89.3
		外国語	1		83.6
			2		80.3
Ⅱ1(14) 2(13) 3(14)	「国語科・数学科・外国語科)では、定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題し、その結果を分析し授業改善に生かしている。」	国語	1	85.0	81.1
			2	83.6	78.7
		数学	1	81.2	82.0
			2	79.9	82.0
		外国語	1	83.5	86.1
			2	84.2	86.1

(分析の概要)

国語科・数学科・外国語科において、学習したことを振り返らせる指導を行っている割合、定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題し、その結果を分析し授業改善に生かしている割合は概ね8割を超えている。

②主体的な学びに関する調査について

国語科・数学科・外国語科において、特に主体的な学びに関連すると考えられる次の質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」）をした割合を、平成29年度から平成30年度まで整理した。

番号	質問項目	学年	H29	H30
Ⅱ1(7)	「国語科では、様々な資料を用いて、根拠を踏まえて論理的に書かせる指導を行っている。」	1	67.7	72.1
		2	67.2	72.1
Ⅱ2(7)	「数学科では、生徒に予想や試行錯誤を通して自ら課題を出させる指導を行っている。」	1	45.5	68.9
		2	46.5	70.5
Ⅱ3(7)	「外国語科では、読んだ内容について自分の考えを英語で書いたり、自分の考えを書いた英語をもとに意見交換したりするなど、「読むこと」、「聞くこと」、「話すこと」と有機的に関連付けて「書くこと」を行わせる活動を取り入れている。」	1	55.6	67.2
		2	57.9	68.9

(分析の概要)

国語科・数学科・外国語科において、生徒の主体的な学びを促すための指導が行われている割合が上昇している。

(2) その他教育活動に関する調査について

カリキュラム・マネジメントに関連する次の質問項目に対して、肯定的回答（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」）をした割合を整理した。

番号	質問項目	学年	H30
I (10)	学校の実態や課題に即して具体化された学校教育目標を、全教職員が理解している。	1	97.5
		2	97.5
I (11)	重点目標（学校教育目標から定められた単年度ごとに達成すべき具体的目標）を、全教職員が理解している。	1	96.7
		2	96.7
I (12)	重点目標（学校教育目標から定められた単年度ごとに達成すべき具体的目標）達成のための教育活動の計画及び実施がされている。	1	96.7
		2	96.7
I (13)	教育活動の成果を測るための評価指標が設定され、それに基づいた成果検証を行うために必要なデータが収集されている。	1	85.2
		2	86.9
I (14)	データを基に教育活動の成果が検証され、その結果が重点目標（学校教育目標から定められた単年度ごとに達成すべき具体的目標）や評価指標の見直しに生かされている。	1	81.1
		2	82.8
I (15)	地域等の外部の資源を含めて、教育活動に必要な人的・物的資源等を活用している。	1	92.6
		2	91.8

(分析の概要)

学校教育目標や重点目標の理解、教育活動の計画及び実施については、ほぼ全ての学校で行われているが、成果検証に向けたデータ収集や評価指標の見直しの実施については、8割程度にとどまっている。

### 3 学校質問紙調査と生徒質問紙調査

#### (1) 学校質問紙（活用問題の取組）と生徒質問紙（学習に関する質問項目）との関連

学校質問紙Ⅰ(16)「定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題する取組を学校全体で組織的に進めている。」に対して、「よくあてはまる」を回答している学校（学校群Ⅰ）とそれ以外の回答をしている学校（学校群Ⅱ）に分け、生徒質問紙の各質問に対して、それぞれ肯定的な回答（「あてはまる」または「ややあてはまる」）を選択した生徒の割合に注目した。その結果、次の質問項目に対して肯定的な回答を選択した生徒の割合は、学校群Ⅰと学校群Ⅱの間で10%以上の差があった。

（肯定的な回答をしている生徒の割合）

番号	質問	学校群Ⅰ （活用問題の取組 を組織的に進めて いる学校）	学校群Ⅱ （その他の学校）	差
Ⅱ(22)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	64.6	54.5	10.1
Ⅱ(23)	「自分から進んで勉強します。」	47.5	35.9	11.6
Ⅱ(48)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	66.8	55.1	11.7

（分析の概要）

「定期考査等に知識・技能を活用する力を問う問題を出題する取組を学校全体で組織的に進めている学校は、「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあること」、「自ら進んで勉強すること」、「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいること」について肯定的な回答をしている生徒の割合が高い。

#### (2) 学校質問紙（ポートフォリオ評価等の取組）と生徒質問紙（学習に関する質問項目）との関連

学校質問紙Ⅰ(17)「生徒の資質・能力の高まりを見取るために、ポートフォリオ評価などの評価方法を取り入れている。」に対して、「よくあてはまる」または「ややあてはまる」を回答している学校（学校群Ⅰ）とそれ以外の回答をしている学校（学校群Ⅱ）に分け、生徒質問紙の各質問に対して、それぞれ肯定的な回答（「あてはまる」または「ややあてはまる」）を選択した生徒の割合に注目した。その結果、次の質問項目に対して肯定的な回答を選択した生徒の割合は、学校群Ⅰと学校群Ⅱの間で10%以上の差があった。

（肯定的な回答をしている生徒の割合）

番号	質問	学校群Ⅰ （ポートフォリオ 評価等を取り入れ ている学校）	学校群Ⅱ （その他の学校）	差
Ⅱ(22)	「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあります。」	65.5	54.6	10.9

II (23)	「自分から進んで勉強します。」	48.8	35.3	13.5
II (48)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」	67.9	56.2	11.7
II (36)	「物事を筋道を立てて考えようと思います。」	72.2	61.7	10.5

(分析の概要)

「生徒の資質・能力の高まりを見取るために、ポートフォリオ評価等の評価方法を取り入れること」に積極的に取り組んでいる学校は、「これまで学習したことの中で、もっと学びたいことがあること」、「自分から進んで勉強すること」、「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいること、「物事を筋道を立てて考えようとする事」について肯定的な回答をしている生徒の割合が高い。

(3) 資質・能力の評価に関する実践事例

生徒の資質・能力の高まりを見取るために、ポートフォリオ評価等の評価方法を取り入れることについては、平成30年度高等学校課題発見・解決学習推進プログラムにおける研究開発校10校において、資質・能力の評価に関する研究を行っている。その中で、ポートフォリオ評価等を取り入れている学校のうち、特に資質・能力の育成を図る特徴的な取組を行っている2つの学校の取組事例を紹介する。

学校名	特徴
広高等学校	「私の活動記録」などのポートフォリオを活用し、生徒の自己評価の変化に着目して学習の振り返りをさせることで、自己の変容を実感させている。
日彰館高等学校	「振り返りシート」を基に生徒の自己評価と教員の評価の違いについて、生徒と教員が対話を行うことで、今後の成長の見通しをもたせている。

①広高等学校（詳細は資料1を参照）

取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で育成するコンピテンシーを再整理している。</li> <li>・各教科の授業や総合的な学習の時間において、育成するコンピテンシーを明確にして生徒に認識させている。</li> <li>・ポートフォリオやルーブリックを活用した生徒の継続的な自己評価を実施し、学習の振り返りを充実させている。</li> </ul>
取組のポイント	<p><b>ポイント1「育成すべき資質・能力の再整理」</b></p> <p>従来設定していた育成すべき資質・能力は16項目に細分化されていた。この資質・能力について、教員間での共通認識を深めたり、生徒の自己評価を充実させたりするため、校内検討会議や校内研修での議論を経て7項目に整理した。その結果、コンピテンシーを育成する学習場面について、教員間で共有することができた。</p> <p><b>ポイント2「継続的な自己評価の実施とその分析」</b></p> <p>生徒自身に自己の変容を見るための「私の活動記録」や「コンピテンシー活用記録表」などを月に1度計画的に作成させた。その結果、生徒ができるようになったことやその理由などを振り返ることで、今後の学習への動機づけを図ることができた。また、コンピテンシーの自己評価が上昇した学年も見られた。</p>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピテンシーを育成するための学習活動を、探究的な学習活動の視点で充実させること。</li> <li>・生徒の自己評価と教員による評価のクロス分析等を通して、生徒の成長につながる評価活動を行うこと。</li> </ul>

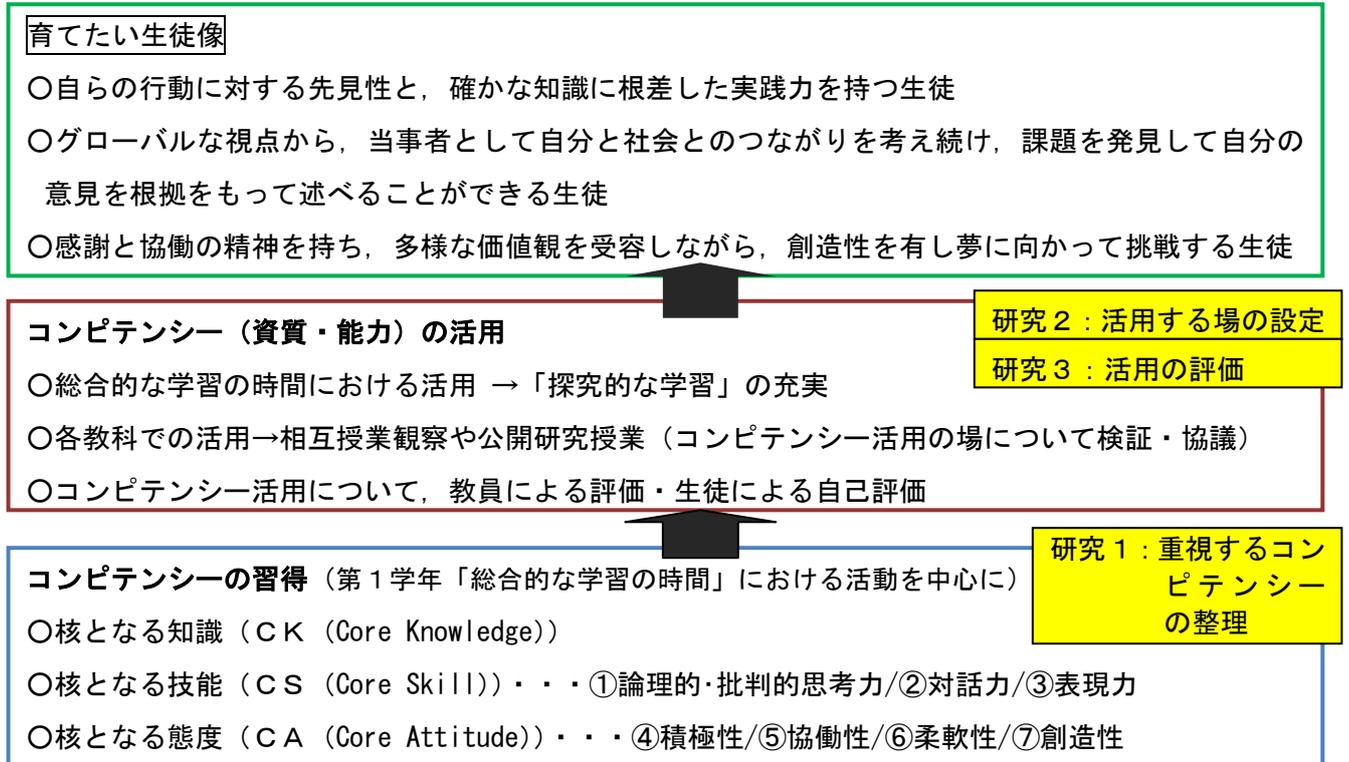
②日彰館高等学校（詳細は資料2を参照）

取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉舎町内の小中学校と連携し、12年間で育成する資質・能力を設定している。</li> <li>・資質・能力の育成に向けて、学校行事と総合的な学習の時間を連動させ、学びの真正性を向上させている。</li> <li>・生徒一人一人の学習活動をきめ細かく評価し、生徒の作成物や振り返りシートをもとに対話を行い生徒の成長につながる評価を組織的に実践している。</li> </ul>
取組のポイント	<p><b>ポイント1「総合的な学習の時間と学校行事との連動」</b></p> <p>資質・能力の育成に向けて、学校行事と総合的な学習の時間を連動させることで、学びの真正性が向上するとともに、学習成果の表現の場が明確に位置付けられ、探究の過程を踏まえた学習活動を設計することができた。</p> <p><b>ポイント2「生徒との対話を生かしたフィードバック」</b></p> <p>生徒の一人一人の学習活動の過程や成果を見取るため、担当する生徒を決めて学習活動を観察した。また、生徒の自己評価と教員の評価を比較し、「もっとよくなるために」といった視点で生徒との対話を通してフィードバックを行った。生徒は学習の成果や課題を自覚し、今後の学習の方向性を見いだすことができた。</p>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリックを学習場面に応じてさらに具体化し共通認識を図ること。</li> <li>・生徒と教師との相互の評価活動を検証し、学習活動や評価活動の改善を図ること。</li> </ul>

## 課題発見・解決学習推進プロジェクトに係る取組

広島県立広高等学校

## 《研究構成図》



## I 研究概要

**研究 1** 重視するコンピテンシーの整理

（昨年度）4 系統 16 個のコンピテンシーの習得・活用

コンピテンシーが細分化されていた

**ポイント 1**

（今年度 2 学期～）7 個のコンピテンシーに再設定

学校経営計画や校内の研修会及び検討会議を基に複数のコンピテンシーを統合する、絞る、新たに設定するなど。（多面的にコンピテンシーを捉える）

例：セッション+ディスカッション+ペアワーク → 対話力

例：創造性（新規）

**研究 2** コンピテンシーを活用する場の設定

## 1 相互授業観察や公開研究授業（コンピテンシーの活用について、教科を越えて研究）

## (1) 相互授業観察

コンピテンシーの活用に主眼を置いた授業観察をするため、4・5人のグループ（教科混合）を編成

## (2) 公開研究授業・研究協議会

テーマ：「論理的・批判的思考力」を活用する場をどのように設定し、評価すればよいのか？



- ・相互授業観察時のグループで、一つの生徒グループを観察し、生徒の様子を基に研究協議

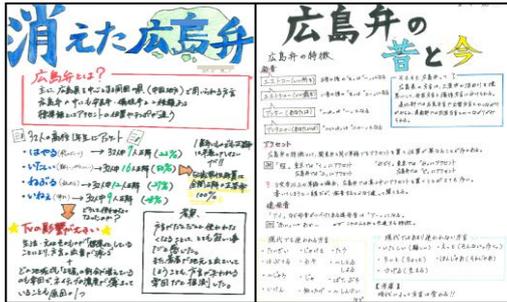
- ・コンピテンシー（論理的・批判的思考力）が活用できていたか、生徒の自己評価の方法が適切だったかを協議

- ・教科の枠を越えて、「コンピテンシーを活用する場をどのように設定するか」を協議

2 総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習の充実  
第1学年総合的な学習の時間の教育内容の再検討・実施

4～8月：コンピテンシーの習得 → CS・CAを中心に  
9・10月：地域（広・呉）について研究テーマの設定，調査，発表  
→各コンピテンシーの活用  
→地域についての知識や情報収集の方法を身に付ける  
11～3月：地域について解決すべき課題の発見，課題の設定，情報収集，課題の見直し，解決策（仮説）の考案，調査・検証，まとめ，発表  
→各コンピテンシーの活用

・10月の発表について



広（呉）地域について，興味を持ったこと，研究したいと思ったことを調査・研究 → レポート1枚にまとめる。

- ・グループで一つテーマを設定し，そのテーマを多方面から調査。（左のレポートは同じ広島弁をテーマに，2人の生徒がそれぞれ「若者がどのくらい方言を知らないか」と、「広島弁の特徴や昔と現在の違い」を主にまとめている。）
- ・学年全体で，発表したレポートを共有し，研究内容を振り返り，次の課題研究へ活かす。

研究3 コンピテンシーの活用  
についての評価

ポイント2

(1) ポートフォリオの活用

- ・「わたしの活動記録」の記入  
→月に1度，活動やそれを通して身に付けたことや考えたことを記入し，自己の変容を見る

(2) コンピテンシー活用のルーブリック（自己評価表）

- ・毎月末に，各コンピテンシーを自己評価  
→ 自己の変容を見る
- ・学期ごとに「できるようになったこと」を記述  
→ 数値評価（4段階）と記述評価の併用
- ・教員による評価（生徒用と同じルーブリックによる数値評価，2月実施予定）

「わたしの活動記録」

「コンピテンシー活用自己評価表」

「生徒によるコンピテンシー自己評価の変化」

全体	8・9月	12月	大きく変化があった学年
①論理的・批判的思考力	3.3	3.6	(1年生3.0→3.4)
②対話力	3.3	3.6	(1年生3.0→3.4)
③表現力	3.1	3.5	
④積極性	3.3	3.5	
⑤協働性	3.3	3.5	
⑥柔軟性	3.4	3.6	(1年生3.0→3.4)
⑦創造性	3.2	3.5	

II 成果

- 教員が，コンピテンシーを活用する場についての意識や，探究的な学習についての考え方を共有することができた。
- すべてのコンピテンシーについて，活用する場面があることを教員間で確認できた。
- コンピテンシーの活用を評価するルーブリックを作成し，生徒には自己評価をさせ，自己の取り組みを振り返らせるとともに，更なる学習に向けた動機づけを図ることができた。（すべてのコンピテンシーの自己評価が8月から12月にかけて上昇した。）

III 課題

- 社会との接続を通じて自己の在り方生き方を考える探究活動の教育内容を創造すること  
→ 地域社会・企業・大学等との連携を模索  
→ 自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を発見させ，解決策の考案
- 生徒の自己評価や教員による評価の妥当性の検証方法を検討すること  
→生徒の自己評価と教員の評価によるクロス分析など
- どのコンピテンシーをどこで活用するかをより明確にすること  
→コンピテンシーベースのカリキュラムマップの作成

(参考)「わたしの活動記録」



広高等学校第1学年(平成30年12月) わたしの活動記録

平成30年12月 日記入

1年 組 番 氏名

高校時代の様々な活動について、学習・活動履歴として記録に残します。記録に残すことを通じて、「何を学んだか」を伝えられるかどうか重要です。「くやつつけ仕事」厳禁!!、自分自身を見つめることです。

<p>委員会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高校内における生徒会、委員会、クラス活動等の組織活動</li> </ul>	<p>【活動履歴(正式名称)】</p> <p>【どのように取組んだか(文章記述)】</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>スポーツ活動 文化・芸術活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大会への出場歴、記録</li> <li>●所属・役割、資格等</li> <li>●活動にどのように参画したか。</li> </ul>	<p>【活動履歴(正式名称)】</p> <p>【どのように取組んだか(文章記述)】</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>課外活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●探究活動</li> <li>●アドミック活動</li> <li>●留学、海外経験</li> <li>●ディベート・スピーチコンテスト等</li> </ul>	<p>【活動履歴(正式名称)】</p> <p>【どのように取組んだか(文章記述)】</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>校外活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校外クラブ活動</li> <li>●各種ボランティア活動(取組内容、実施期間を含む)</li> </ul>	<p>【活動履歴(正式名称)】</p> <p>【どのように取組んだか(文章記述)】</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>資格・検定の受験状況、結果</p>		<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>

・資格取得証明書、部活動大会・コンテスト等の表彰状、記録証等はA4サイズで各自コピーし、ファイルに綴じておく。

<p>授業(「各教科・科目」,「総合的な学習の時間の学習」)の振り返り 「何を学んだのか」,「今後の展望をどう描くか」</p>	<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>授業, 部活動以外の校内での活動(学校行事等)の振り返り 「どのように参画したのか」,「他者とどう関わったのか」</p>	<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>

【12月のキーワード】 期末考査, 生徒会執行部改選, 各種委員の活動, 入学後9か月及び2学期の振り返り

コンピテンシー活用自己評価

[ ]年[ ]組[ ]番 氏名[ ]

この「自己評価」は、これまで各授業や「総合的な学習の時間」で活用してきたコンピテンシーで活用してきたコンピテンシーがどれだけ定着しているか、自己評価をします。まず、次の各系統ごとにある「評価」欄の該当する数値を右の欄に書いてください。

社会で求められる資質・能力 (コンピテンシー)		自己評価 (ルーブリック)			
評価	1月	2月	3月		
核となる「技能」 Core Skill 【CS】	①論理的・批判的思考力 ロジカルシンキング クリティカルシンキング	4	テーマについて、根拠をもって分析し、自分の意見を組み立て適切に判断・評価を下すことが出来る。		
		3	テーマについて、根拠をもって分析し、自分の意見を組み立て自分なりの判断・評価を下すことが出来る。		
		2	テーマについて、根拠をもって分析し、自分の意見を組み立てることが出来る。		
		1	テーマについて、根拠をもって分析したり、自分の意見を組み立てたり適切な評価を下すことが出来ない。		
	②対話力 セッション ディスカッション	4	テーマについて、他者の意見を積極的に取り入れ、自分の意見を正直に他者に分かりやすく伝えることが出来る。		
		3	テーマについて、他者の意見を積極的に取り入れ、自分の意見を見直し他者に伝えることが出来る。		
		2	テーマについて、自分の意見を他者に伝えることが出来る。		
		1	テーマについて、自分の意見を他者に伝えることが出来ない。		
	③表現力 スピーチ ライティング パフォーマンス	4	テーマについて、自分の考えや感情を言語や作品等で分かりやすく他者に向かって表すことが出来る。		
		3	テーマについて、自分の考えや感情を言語や作品等で他者に向かって表すことが出来る。		
		2	テーマについて、自分の考えや感情を言語や作品等で部分的には他者に向かって表すことが出来る。		
		1	テーマについて、自分の考えや感情を言語や作品等で他者に向かって表すことが出来ない。		
④積極性 自ら進んでものに取り組もうとする。	4	テーマについて、常に自ら進んで取り組んでいる。			
	3	テーマについて、自ら進んで取り組んでいる。			
	2	テーマについて、他者から指示されたことには取り組んでいる。			
	1	テーマについて、他者から指示されたことにも取り組めていない。			
⑤協働性 1 他者と協調したり、状況に合わせたりする。 2 集団の中で役割を果たそうとする責任感をもつ。 3 結論に向けて集団を導くリーダーシップをもつ。	4	テーマについて、他者と協力して活動したり、活動に十分な責任を持って取り組んだり、集団の中でリーダーシップを発揮している。			
	3	テーマについて、他者と協力して活動したり、活動に責任を持って取り組んだりしている。			
	2	テーマについて、他者と部分的に協力して活動したり、活動に責任を持って取り組んだりしている。			
	1	テーマについて、他者と協力して活動したり、活動に十分な責任を持って取り組んでいない。			
⑥柔軟性 1 自分と異なる意見を理解したり、意にそぐわないことを受け入れたりする。 2 自分の誤りや不足している部分を改善しようとする。	4	テーマについて、自分の意見と異なる他者の意見を理解したり、自分の活動について常に吟味し、より良いものようにしている。			
	3	テーマについて、自分の意見と異なる他者の意見を理解したり、自分の活動について吟味し、より良いものようにしている。			
	2	テーマについて、自分の意見と異なる他者の意見を理解したり、自分の活動について吟味しようとしている。			
	1	テーマについて、自分の意見と異なる他者の意見を理解したり、自分の活動について吟味していない。			
⑦創造性 1 失敗を恐れず、新たなものを創る。 2 新たな取り組みに挑戦しようとする。	4	テーマについて、常に失敗を恐れずに新たなものを創ったり新しい取り組みに挑戦している。			
	3	テーマについて、常に失敗を恐れずに新たなものを創ったり新しい取り組みに挑戦しようとしている。			
	2	テーマについて、時折り失敗を恐れずに新たなものを創ったり新しい取り組みに挑戦しようとしている。			
	1	テーマについて、新たなものを創ったり新しい取り組みに挑戦していない。			

(1) 平成 30 年度「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」研究開発校

「田舎主義」で深める課題発見・解決学習に係る取組

広島県立日彰館高等学校

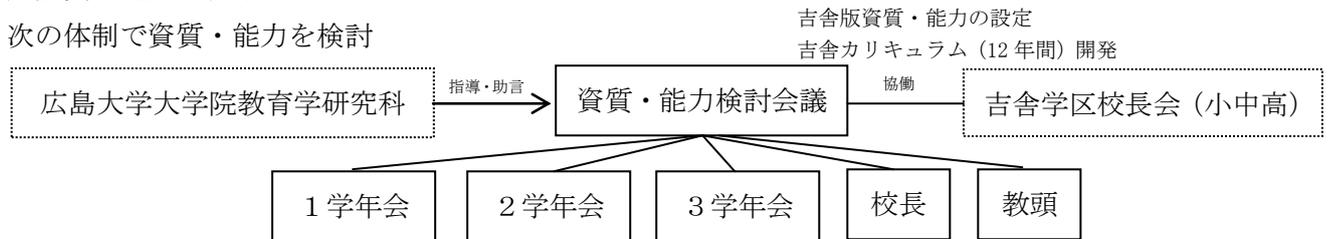
0 研究目標

学校全体で育成する「資質・能力」を明確にし、総合的な学習の時間を中心とした「のめりこむ学び」や「田舎主義評価」の具体的な実践を通して課題を明らかにする。

1 育成を目指す資質・能力について

(1) 資質・能力の設定プロセス

・次の体制で資質・能力を検討



・検討会議に持ち寄った資質・能力案（抜粋）と育成を目指す資質・能力の三つの柱との関連

案	・未知のものに対して好奇心をもってチャレンジできる素朴さ	・多様性を受け入れる心 ・つながる／つなげる力	・志を自分の中に醸成し、その実現のために継続して努力する力
---	------------------------------	----------------------------	-------------------------------

柱	①生きて働く「知識・技能」の習得	②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
---	------------------	--------------------------------	------------------------------------

(2) 設定した資質・能力

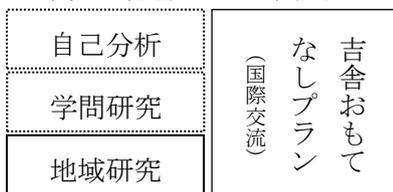
	①知識と他者の考えを求める主体性	②多様な意見を受けとめ自らを関わらせる力	③ヒト・モノ・コトの背景に触れ吉舎で学ぶ意味につなげる志向性
IV	IIIを越えたと思われる、またはその価値があると思われることができる。(PDCAを繰り返す研究活動に及んでいる、等)	IIIを越えたと思われる、またはその価値があると思われることができる。(自分の発言が他者の価値観を刺激している、等)	IIIを越えたと思われる、またはその価値があると思われることができる。(具体的な志を持ち、その実現に向けた行動を実際に行っている、等)
III	日彰館での学びに関わる知識・情報や他者の考えを自ら追究することができる。	日彰館での学びに関わる多様な意見と自分自身の考えとを関わらせることで、自分自身の考えを他者に伝わるように表現することができる。	日彰館での学びに関わるヒト・モノ・コトの背景と吉舎で学ぶ自分自身とをつなげて思考し、これからの自分自身の生き方や学びの方向性を考えることができる。
II	日彰館での学びに関わる他者の考えを取り入れ、知識事項を主体的に身に付けようとすることができる。	日彰館での学びに関わる多様な意見の中から自分自身との関わりから、一つ(あるいは複数)の意見を選ぶ判断をして、自分自身とつなげて思考することができる。	日彰館での学びに関わるヒト・モノ・コトの背景と吉舎で学ぶこととをつなげて思考することができる。
I	日彰館での学びに関わる知識事項を習得できている。	日彰館での学びに関わる多様な意見の意図を理解し、自分の言葉で言い換えることができる。	日彰館での学びに関わるヒト・モノ・コトの背景を理解することができる。

2 カリキュラムの工夫

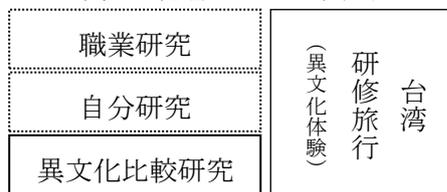
(1) 学校行事と総合的な学習の時間の連動 → 学びの真正性の向上

**ポイント1**

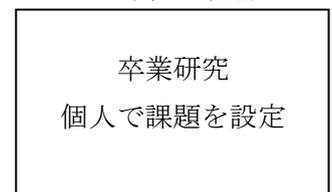
1年次 総合 → 学校行事



2年次 総合 → 学校行事

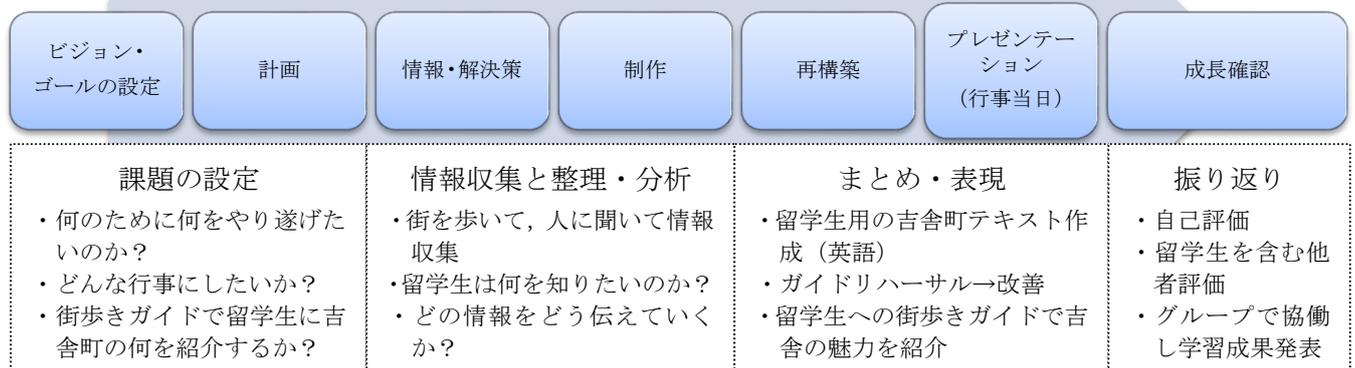


3年次 総合



(2) 「のめりこむ学び」(プロジェクト学習)の実践 ※「のめりこむ」学び=内発的な学習意欲を伴った学習

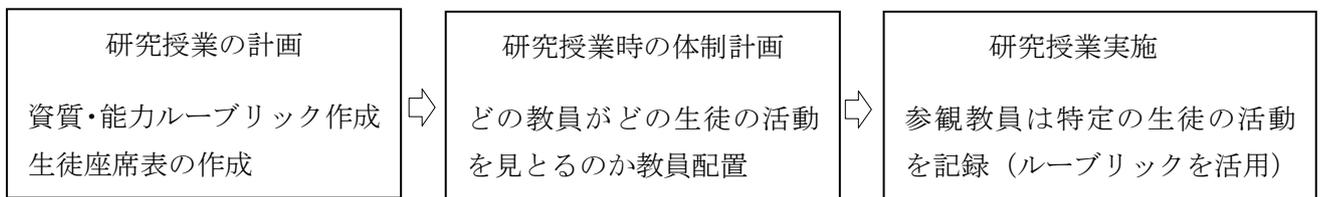
・1学年の吉舎おもてなしプランに向けた地域研究を次のフェーズに落とし込み単元化



### 3 「田舎主義評価」の実践

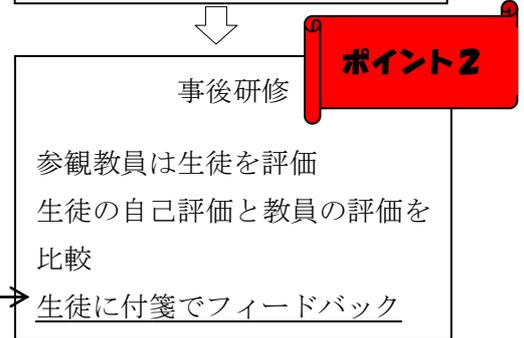
※田舎主義=静かで美しい自然と人情豊かな環境にある吉舎のような田舎でこそ立派な若者を養成する教育が可能であるという館祖の考え

(1) 小規模校の強みを活かした一人ひとりの生徒の活動を見とる評価の実践体制

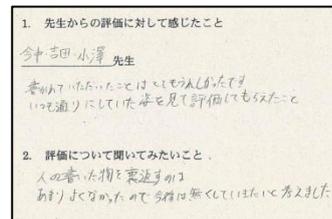
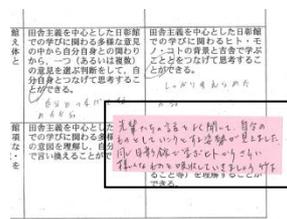


(2) 校内研修における評価の在り方と意義の共有

- ・本校にとっての評価とは? ←
- 生徒が「もっとよく」なるために、どうフィードバックするか。
- ・実際に付箋にコメントを書くことで、実践例を積み重ねる。
- ・付箋のフィードバックに対する生徒の反応を見る。
- ・評価を通して生徒とのやりとりが生まれ、対話的な評価へ。



生徒の活動 → 生徒の振り返り → 教員の評価 → 生徒の反応 → 対話



### 4 課題と行動計画

(1) 資質・能力の評価基準の共有

現在活用している資質・能力ルーブリックの基準の共通認識が不足しているため、評価が個人の価値観に偏ったものになりやすくなっている。評価する授業や行事に合わせて具体化・焦点化し、共通認識を持ったうえで評価を行っていく。

(2) 実践例の積み重ねによる「田舎主義評価」の練り上げ

現在の「田舎主義評価」の実践を授業や行事等で積み重ね、本校にとっての評価の在り方と意義を見出し、理論化していく。

全校合同田舎主義 H30. 12. 12 \_\_\_\_\_グループ \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 \_\_\_\_\_番 氏名\_\_\_\_\_

振り返りシート

1. 田舎主義での学びを振り返り、下の①～③項目のⅠ～Ⅳのどこに自分自身があてはまるかを考えて○をつけましょう。また理由(できたことなど)を表の余白に書き込みましょう。

	i 知識と他者の考えを求める 主体性	ii 多様な意見を受けとめ自ら を関わらせる力	iii ヒト・モノ・コトの背景に 触れ吉舎で学ぶ意味につな げる志向性
Ⅳ	Ⅲを越えたと思われる、またはその価値があると思われることができている。(PDCAを繰り返す研究活動に及んでいる, 等)	Ⅲを越えたと思われる、またはその価値があると思われることができている。(自分の発言が他者の価値観を刺激している, 等)	Ⅲを越えたと思われる、またはその価値があると思われることができている。(具体的な志を持ち、その実現に向けた行動を実際に行っている, 等)
Ⅲ	田舎主義を中心とした日彰館での学びに関わる知識・情報や他者の考えを自ら追究することができる。	田舎主義を中心とした日彰館での学びに関わる多様な意見と自分自身の考えとを関わらせることで、自分自身の考えを他者に伝えるように表現することができる。	田舎主義を中心とした日彰館での学びに関わるヒト・モノ・コトの背景と吉舎で学ぶ自分自身とをつなげて思考し、これからの自分自身の生き方や学びの方向性を考えることができる。
Ⅱ	田舎主義を中心とした日彰館での学びに関わる他者の考えを取り入れ、知識事項を主体的に身に付けようとする事ができる。	田舎主義を中心とした日彰館での学びに関わる多様な意見の中から自分自身との関わりから、一つ(あるいは複数)の意見を選ぶ判断をして、自分自身とつなげて思考することができる。	田舎主義を中心とした日彰館での学びに関わるヒト・モノ・コトの背景と吉舎で学ぶこととをつなげて思考することができる。
Ⅰ	田舎主義を中心とした日彰館での学びに関わる知識事項(具体的には、吉舎おもてなしプラン・異文化比較研究・卒業研究に関すること等)を習得できている。	田舎主義を中心とした日彰館での学びに関わる多様な意見の意図を理解し、自分の言葉で言い換えることができる。	田舎主義を中心とした日彰館での学びに関わるヒト・モノ・コトの背景(具体的には、吉舎おもてなしプラン・異文化比較研究・卒業研究に関すること等)を理解することができる。

2. 田舎主義を中心とした日彰館での学びを振り返り、「できた」と思った部分と「できなかった、むずかしかった」と感じた部分を書いてみましょう。

3. 2学期がもうすぐ終了します。今日までの学習を振り返り、冬休みと3学期に向けて、あなた自身が「課題」として取り組みたいと思っていることを一つ、挙げましょう。